

慈雨と満濃池に頼った農民

満濃池史要に記されているように、僧空海が築堤に至るまでに既に池はあったが、水利をこの池に仰ぐことは、この池の歴史が物語っており、数百年の永い間、池内村が池の中にできたことさえあった。池普請の為に、池領（小松庄を含む一帯の地域）という名称さえがそれをあらわしている。

例えば燕石、佐太郎の生涯にも安政元年七月の堤防決潰、七月九日夜半の激流奔波により数十村の青田は一時にして荒蕪となり、人畜死傷おびただしく、その後十四年間旱天の災いは居民の辛酸をいたすに至った状をのべている。

燕石の詩に

万濃池廃十余秋 夏月溝渠無寸流

箇々田畦人鑿井 柳辺樺影急於隄

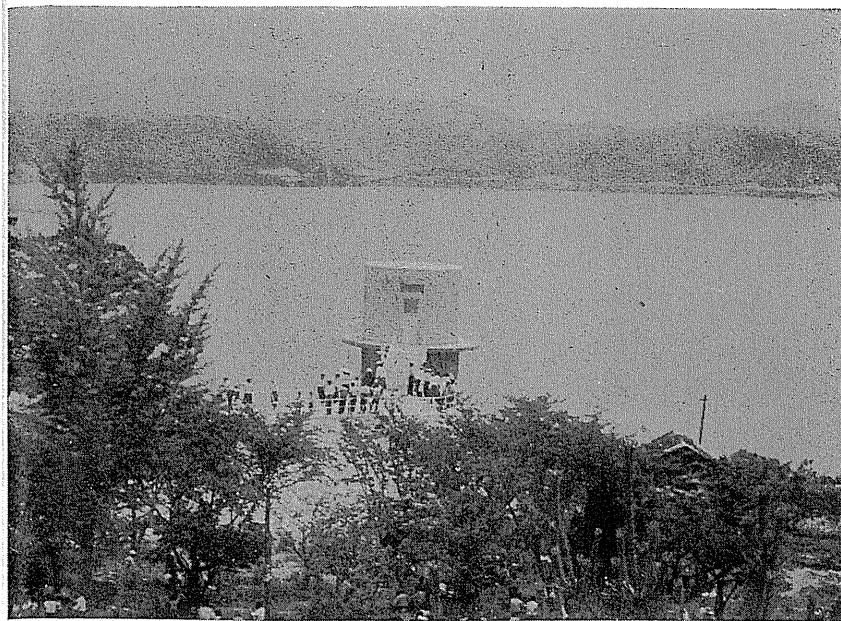
はその悲惨の極を表現している。

満濃池すたれて十年余り、夏の月は曇り空さえ見せず、溝という溝にはいささかの流れとてない。田ごとうねのきわに井戸を掘りめぐらし、はねつるべで田に水を注ぐ人たちは夜半をとおして、柳のあるあたりのつるべは、まりのはね返る如くせわしくもたち働いている。

この農民の水にたよる状、洪水の禍もまたしきり。慶応二年秋八月の洪水、米価の騰貴、飢餓も迫った。



満 濃 池



池 濃 満

ここで長谷川佐太郎の活躍が行なわれたのである。(郷土に輝く人々、長谷川佐太郎に詳説す)

いわゆる慶応二年寅年の洪水といわれ、琴平は出水床上で膝を没する程で、鞆橋も建物も流失して、人畜の死傷数を知らずと伝えている。

このような水禍は度々あった。かくて池の普請、修築に要する費用を充てた灌漑地は「池ノ領」として勿論、現在琴平の町はすべてその域内の一部としてであった。だから延宝の地図にも「池の領」として図示されているし、現在に至る迄多度津、丸亀の一部に至るまでが、満濃池水利費分担の地域に属する。(その他「満濃水、利組合、土地改良区史」にゆずる)

また、これより先、嘉永二年(一八四九)の満濃池ゆる改造にあたり、庄屋長谷川喜平次も水利事業に大きな力をいたしたのであった。

明治二年九月、佐太郎の歎願遂に功を奏して築堤、樋の建造等にいたって、それに関与する松崎波右衛門等の功もしるさねばならない。(満濃池堤の碑、また満濃池史要などに詳説)

従ってこれらにかかる時代のことひらの人たちの生活史があったし、喜悦の状や苦闘の時代や、その農民の姿もおしはかれるのである。

消防略史

消防年代史

消防組から広域消防へ

明治以前の資料には芝居小屋火災、高嶺町火災、永く続いた嘉永の頃の地震(当地は地震の災害は古来極めて微々たるものであったが、困窮の家屋倒壊の事実は風害、地震のたゞあるにはあった)それから町々での火災の条は史料に散見せられる。例えば延享五年九月二日、大風。明和九年、洪水。

町方大勢流相果候。寛保四年十二月十九日、内町大火。明和三年正月八日、金山寺大火。嘉永七年十一月五日、七ツ半時大地震、前代未聞。この年十二月晦日まで地震つづく。(全国的にも)。また宝暦三年四月、二度にわたり御山猪、鹿追い出し、願状など。その都度組うちや部落ごとこれに対処し、又労力を以て善隣友好をはかった事であろう。

金光院は或いは救助米を出したり、酒屋株の如き一応当時資産をもった家筋や、庄屋筋の中にも善意を施し、更生に意を用いた人たちもいた。

とも角、これらの事がすべて消防組とかかわりのある事ではなかったにしても、かくありて明治中期に入る頃、消防組の組織がみられた。(別項消防組の項にあり)以来、今日に至る消防略史は次のようである。

明治年間
 17・6・13 琴平村消防方一保、正明の両組結成
 25・5・ 琴平町私設消防組三組結成
 27・5・ 琴平町公設消防組結成、初代組頭松島真太郎
 45・4・1 目的 水、火災の予防及び救護
 二代組頭平田常太郎
 大正年間
 3・10・ ランプの石油壺を金属製に改めさす
 5・8・1 組員増谷竹次郎風水害で金倉川氾濫し堤防の決壊箇所統出のため大宮横井の取除き作業中濁流にのまれ殉職す
 5・12・31 三代組頭 近藤 猛
 9・1・26 四代組頭 丸井 福男
 9・11・5 五代組頭 伊島 正二
 10・2・3 六代組頭 塚田藤十郎
 11・3・31 七代組頭 福田 秀太
 12・7・4 第十一師団特命検閲使梨本宮殿下御宿泊警備

昭和年間
 3・4・23 警鐘台設置(鉄骨製高さ二〇メートル)
 6・4・8 公設消防春季連合演習

- 9・7・6 粉所字榎原国有林火災応援出動
- 9・12・3 組頭福田秀太(町長) 防火演習指揮の途中倒れ
- 11・11・26 これが病因となり死亡す
- 11・11・3 ガソリンポンプ購入
- 12・11・3 松尾寺に消防殉職者慰霊碑建立
- 14・4・1 琴平町警防団組織、八代団長大利政彦(町長)
- 15・6・14 李王殿下御宿泊警備
- 18・9・7 九代団長安達賢
- 19・8・1 谷友幸氏お手引きガソリンポンプ一台寄贈せらる
- 20・7・ 高松市戦災緊急応援
- 21・1・6 十代団長堀瀬慶次
- 22・4・24 旧陸軍使用の消防ポンプ自動車の払下げを受け多度津工機部において車体を赤色塗装す
- 22・9・16 琴平消防団改組、十一代団長近藤喜八、団員一一名
- 23・9・10 公会堂入口に消防用防火水そう(三八立方メートル)設置
- 24・8・28 琴平小学校横に防火水そう(二〇立方メートル)設置
- 24・9・16 十二代団長高橋荒太郎
- 25・3・16 天皇陛下とらや旅館御宿泊警備
- 27・3・4 坂町納庫完成、谷氏寄贈の手引動力ポンプ配置

- 28・11・26 消防ポンプ自動車(いすず) A二級購入
- 29・9・26 十三代団長白川常一
- 30・4・1 榎井村と合併、面積四、〇三六平方キロ、人口一二三四人
- 31・3・31 団長白川常一、団員一二七名
- 31・3・31 榎井村には団員五四名と消防ポンプ自動車一台手引動力ポンプ一台を装備していた。合併を機に退団者一二名あり
- 31・5・5 満濃町五条西地区の編入
- 31・5・5 仲多度地区消防連合会ポンプ操法大会で自動車の部優勝
- 32・4・26 仲多度地区消防ポンプ操法大会で手引動力ポンプの部優勝
- 32・5・12 香川県消防ポンプ操法大会
- 32・6・1 手引動力ポンプの部準優勝
- 32・10・10 消防ポンプ自動車の部第三位
- 32・10・10 十四代団長大森敏之
- 32・10・10 満濃町五条東地区編入
- 32・10・10 人口一三、二〇六人、団員一三七名

33・3・31 象郷村合と合併、人口一五五四八人、団員二二八名

36・12・4 消防専用無線電話設備
36・12・29 基地局一、移動局一、移動局は本部車に設備
消防ポンプ自動車(トヨタジープ)購入
消防本部配属

33・9・ 象郷村には団員五〇名、手引動力ポンプ一台を
装備していたが合併時に解散し、団員二〇名と
手引動力ポンプ一台のみ編入
37・3・16 苗田羽根矢出水掘さく補強、消防用水利とす
貯水量二三立方メートル
37・4・10 西山松竹園前防火水そう(二〇立方メートル有蓋)
完成

33・9・ 小型貨物自動車(トヨペット中古車)第三分団
配属とし、小型動力ポンプを積載、同時に第三
分団所屬の消防ポンプ自動車を第一分団に配置
換え
37・12・24 小型動力ポンプラビット購入、第四分団配属
象郷小学校にブル式防火水そう完成

34・10・10 榎井市街地に水道消火栓三〇カ所設置
34・4・1 消防本部設置の準備としてとりあえず消防団常
備部を設け職員六名を専任、内一名は役場消防
係、他の五名は消防団員
39・9・15 下櫛梨納庫完成、手引動力ポンプを配置
39・11・4 谷川防火水そう(四〇立方メートル有蓋)完成
横瀬、碓子出水掘さく補強、消防用水利とす、
三〇立方メートル、地区住民の労力奉仕を受く

35・1・1 警鐘台にモーターアインを設置
40・4・1 琴平町消防署設置
35・5・20 琴平町消防本部設置
40・11・6 電波法の改正により無線基地局をA三H、移転
局一購入、移動局は署二号車に設備

35・4・1 消防長(町長)大塚義三郎、職員六名
寄贈
40・8・13 消防ポンプ自動車ニッサンジュニア購入
消防署配属
35・6・15 五条に防火水そう(二〇立方メートル有蓋)完成
41・5・31 象郷地区元消防団部長西川辰次氏、勲八等白色
桐葉章を授与さる

41・6・1 携帯無線電話器二機購入
41・6・14 普通貨物自動車ニッサンジュニア購入
45・1・6 十五代団長 長谷川正晴
45・1・6 二代消防長 小島久義

41・7・20 旧警察署より駐車場(現位置)に庁舎移転
42・2・9 榎井厚見出水掘さく補強、消防用水利とす
二六立方メートル
42・3・15 琴平中学校防火水そう(四〇立方メートル無蓋)完成
42・9・13 新消防庁舎落成

42・9・16 消防施設整備費として寄附された現金五〇万円
石材一〇〇万円相当に対し金刀比羅宮に内閣総
理大臣より褒状を授与
42・9・29 駅前噴水式防火水そう完成(四〇立方メートル級)
43・9・26 普通貨物自動車購入(ダットサン)

44・5・12 第四分団配属、小型動力ポンプ一台積載
44・6・4 榎井クラ中防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)
44・12・24 象郷苗田防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)

42・9・16 消防施設整備費として寄附された現金五〇万円
石材一〇〇万円相当に対し金刀比羅宮に内閣総
理大臣より褒状を授与
42・9・29 駅前噴水式防火水そう完成(四〇立方メートル級)
43・9・26 普通貨物自動車購入(ダットサン)

44・5・12 第四分団配属、小型動力ポンプ一台積載
44・6・4 榎井クラ中防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)
44・12・24 象郷苗田防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)

42・9・16 消防施設整備費として寄附された現金五〇万円
石材一〇〇万円相当に対し金刀比羅宮に内閣総
理大臣より褒状を授与
42・9・29 駅前噴水式防火水そう完成(四〇立方メートル級)
43・9・26 普通貨物自動車購入(ダットサン)

44・5・12 第四分団配属、小型動力ポンプ一台積載
44・6・4 榎井クラ中防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)
44・12・24 象郷苗田防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)

42・9・16 消防施設整備費として寄附された現金五〇万円
石材一〇〇万円相当に対し金刀比羅宮に内閣総
理大臣より褒状を授与
42・9・29 駅前噴水式防火水そう完成(四〇立方メートル級)
43・9・26 普通貨物自動車購入(ダットサン)

44・5・12 第四分団配属、小型動力ポンプ一台積載
44・6・4 榎井クラ中防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)
44・12・24 象郷苗田防火水そう完成(四〇立方メートル有蓋)

42・9・16 消防施設整備費として寄附された現金五〇万円
石材一〇〇万円相当に対し金刀比羅宮に内閣総
理大臣より褒状を授与
42・9・29 駅前噴水式防火水そう完成(四〇立方メートル級)
43・9・26 普通貨物自動車購入(ダットサン)